

戦略的創造研究推進事業  
(社会技術研究開発)  
平成29年度実装活動報告書

研究開発成果実装支援プログラム  
「小学校におけるメンタルヘルスプログラムの実装」

採択年度 平成29年度  
実装責任者 石川 信一  
(同志社大学 心理学部、教授)

## 1. 要約

本年度は来年度からのメンタルヘルス予防プログラムの導入に向けて、「諸機関との連携づくり」「専門研究員の研修」「研修会の実施」の3つの活動をおこなった。

### A. 諸機関との連携づくり

共同実施者が中心となって、以下のような活動を行い、メンタルヘルス予防プログラムを京都府内の事業として導入することを進めていった。

- H29.9.15 京都府保健福祉部課長会議にて、共同実施者がRISTEX研究事業についての説明を行い協力依頼。
- H29.9.22 京都府保健福祉部課長会議にて、副部長・障害者支援課長・当所次長と、府内対応について概要を協議。
- H29.9.25 京都府福祉援護課 担当課長・主査との協議を行い、研究事業の主管課にどこが担当するかについて議論。
- H29.9.26 京都府障害者支援課 副課長との協議を行い、引き続き研究事業の主管課をどこが担当するかについて議論。
- H29.9.27 障害者支援課担当課長・副課長と予算措置について協議。  
障害者支援課副課長が保健福祉総務課担当課長と協議。
- H29.10.13 府教育委員会保健体育課 担当課長・副課長に当所研究事業についての協力依頼、及び担当課の確定について依頼。
- H29.11.14 府教育委員会保健体育課 担当課長・副課長に挨拶・研修会の実施についての協力依頼。
- H29.11.17 京丹後市学校保健会 代表者会議に挨拶、協力依頼。
- H29.11.22 京都府南丹教育局 担当課長・教育指導主事へ事業説明と協力依頼。
- H29.11.30 京都府与謝町教育委員会学校保健会代表者会議にて事業説明と協力依頼。
- H29.12.7 京都府相楽地域 中高校学校保健会代表者会議にて事業の説明と協力依頼。
- H29.12.22 障害者支援課副課長と私学への事業説明について協議。
- H29.12.25 京都府庁文教課 私学小中高校担当副課長に事業説明と協力依頼。
- H29.12.27 上記担当副課長と私学対応について協議。
- H30. 3.15 文教課私学小中高校担当者に挨拶。校長会への出席について依頼。
- H30 .3.19 京都市こころの健康増進センターに実装についての協力依頼。

以上のような経緯を経て、メンタルヘルス予防プログラムの実施については、平成30年度においては、「京都府精神保健福祉総合センター調査研究事業」として、京都府健康福祉部精神保健福祉総合センターと府教委保健体育課とが連携する京都府の事業として位置づけられることとなった。

## B. 専門研究員の研修

来年度以降の小学校でのメンタルヘルス予防プログラムの研修に向けて、専門研究員肥田乃梨子は、1月での同志社大学の採用までに、93時間の研修と業務に携わった。詳細は以下の通りである。

1. 研修会映像の視聴（福知山市／入間市）  
本プロジェクトの基となった科研費基盤Bにおいて行われた実装責任者による研修会映像を視聴し、プログラムの概要について学んだ。
2. 研修会の逐語作成  
その上で、臨床心理士としての専門性を活かすために、研修会での実装責任者の全発言を逐語に落とし、研修内容を完全に把握することに努めた。
3. 研修内容に関するFAQの作成  
研修内容について自らが研修を務める際に参加者から問われると想定される疑問点と回答例をまとめた。
4. ワークシートの確認および誤植チェック  
ワークシートにおける最終確認を行い、誤植については修正対照表を作成し、修正を行った。
5. 指導案の確認および誤植チェック  
指導案における最終確認を行い、誤植については修正対照表を作成し、修正を行った。
6. メモ付研修会スライドの準備  
研修会実施に向けて、自らが研修する際に使用するメモ付き研修スライドの準備を行った。
7. 広報用資料の作成  
下記の2月の研修会について広報資料を作成した。
8. 関連研究の文献検索と論文読解  
学校におけるメンタルヘルス予防に関する文献検索と論文読解を行った。
9. 関連研究の資料閲覧  
1月の採用に際して必要となる、関連研究資料について閲覧を行った。  
以上のような研修を経て、平成30年1月9日に、同志社大学研究開発推進機構の特定任用研究員として採用されることとなった。  
また、採用後は以下の業務に専門研究員として携わった。
10. 研究プロジェクトの公式ホームページ制作  
外部への情報発信を目的として、ホームページを開設した。制作は業者に依頼し、原稿作成や校正に取り組んだ。
11. 児童青年認知行動療法研究会ホームページのリニューアル  
プログラムの基盤となる理論の理解促進を目的として、既存の研究会ホームページの情報量を増やし（「認知行動療法とは？」「推薦図書」コンテンツの増設）、公式サイトと相互リンクを貼った。
12. 研修会配布用のパンフレット作成  
研修会の参加者にプログラム内容を周知するための広報資料を作成した。

- 1 3. 研修会準備と運営補助（H30.2.21開催分）  
配布資料の準備や当日の運営補助をした。
- 1 4. 電話対応  
小学校からのプログラム内容に関する質問等について電話で対応した。
- 1 5. 小学校訪問  
実施を前向きに検討する小学校へ直接訪問し、導入に関する障壁や実施可否についてヒアリングを行った。

## C. 研修会の実施

小学校におけるメンタルヘルスプログラムの実装プロジェクトに関するキックオフ研修会として、小中学校の教師および関係者を対象として、以下の研修会を実施し、当日は50名程度の教員関係者が集まった。

題名「子どものためのメンタルヘルス予防教育プログラム」研修会

1. 趣 旨  
不登校や自殺等、子どもたちが抱える心の問題は、全国的にも大きな課題であり、より効果的な教育手法が望まれている。こうした現状を受け、京都府精神保健福祉総合センターでは、同志社大学や国の機関と共同で「小学生のためのメンタルヘルス予防教育プログラム」の社会実装を進めてきた。本研修会は、当該プログラムに基づいた教育手法の普及啓発に向け、プログラムの計画、内容等の周知を図ることにより、効果的なメンタルヘルス対策に資するために開催する。
2. 主 催 京都府精神保健福祉総合センター  
同志社大学  
社会技術研究開発センター(RISTEX)
3. 日 時 平成30年2月21日（水） 午後1時30分～午後4時
4. 会 場 京都府精神保健福祉総合センター 体育室  
京都府伏見区竹田流池町120（京都市営地下鉄「くいな橋」すぐ）
5. 内 容 午後1時30分～ 開会あいさつ  
府精神保健福祉総合センター 所長 土田 英人  
午後1時40分～ 説明「プロジェクトとプログラムについて」  
同志社大学心理学部教授 石川 信一  
府精神保健福祉総合センター 相談指導課長 村澤 孝子  
午後3時40分～ 質疑応答
6. 参加対象 府内国公私立小学校、中学校、義務教育学校、高等学校及び  
特別支援学校の教職員、スクールカウンセラー 等  
府内の心理士・精神保健福祉士 等

7. その他 別紙「メンタルヘルス予防教育プログラムについて」参照

8. 参加申し込み・問い合わせ先

京都府精神保健福祉総合センター 相談指導 村澤

## 2. 実装活動の具体的内容

### 関係諸機関の連携とタスクフォースの確立

メンタルヘルス予防プログラム（Up2d2）の社会的実装に向け、実装責任者、共同実施者、専門研究員（以下、コア実装メンバーとする）からなる専門委員会を立ち上げる。  
→コア実装メンバーの専門委員会を立ち上げた。

#### A. 専門委員会による実装活動準備

➤ 研修準備：プログラムの開発は基盤 B にて終了している。それに基づき実装責任者は、研修用コンテンツ（DVD、ワークシート、マニュアル等）を作成する。  
→実装責任者は、研修用コンテンツを作成した。

➤ コア実装メンバー内での研修：プログラム開発者である実装責任者の監督の下、コア実装メンバー内でプログラムの専門性の習熟を図る。  
→実装責任者・共同実施者・専門研究員が研究打ち合わせを行い、その際に研修会の映像・授業に用いるワークシート・指導案のデータの入った USB を専門研究員から共同実施者へと手渡し、プログラムの専門性の習熟を図った。研究打ち合わせの具体的な活動内容は以下の通りである。

H29.12.26 同志社大学今出川キャンパスにて、書類や広報関係、研修会についての審議を行い、現状の進捗状況や今後の予定を確認した。

H30.1.18 京都府精神保健福祉総合センターにて、共同実施者と専門研究員の活動内容について共有がなされ、今後の研究活動について確認された。

H30.2.14 同志社大学今出川キャンパスにて、2月21日開催の研修会の詳細について審議を行い、諸機関との連携状況について共有がなされた。

H30.3.9 京都府精神保健福祉総合センターにて、共同実施者と専門研究員が今後の小学校訪問について打ち合わせを行った。

➤ 関係機関との連携：共同実施者は、府職員の立場を活かし、各地域の組織を吟味し、プログラム導入におけるカギとなる人物・役職を同定し、連携を取る。  
→共同実施者は、各地域の組織を吟味し、連携を図った。具体的な活動内容は以下の通りである。

H29.9.15 京都府福祉部 部課長会議にて、R I S T E X 研究事業についての説明 協力依頼。

H29.9.22 副部長・障害者支援課長・当所次長と府内対応について概要を協議。

- H29.9.25 京都府福祉援護課 担当課長・主査との協議。
- H29.9.26 京都府障害者支援課 副課長との協議。
- H29.9.27 障害者支援課担当課長・副課長と予算措置について協議。
- H29.10.13 府教育委員会保健体育課 担当課長・副課長に当所研究事業(R I S T E X研究事業)についての協力依頼。
- H29.11.14 府教育委員会保健体育課 担当課長・副課長に挨拶・研修会の実施についての協力依頼。
- H29.11.17 京丹後市学校保健会 代表者会議に挨拶、プロジェクトについての協力依頼。
- H29.11.22 京都府南丹教育局 担当課長・教育指導主事へ事業の説明協力依頼。
- H29.11.30 京都府与謝教育委員会学校保健会代表者会議にて事業説明と協力依頼。
- H29.12.7 京都府相楽地域 中高校学校保健会代表者会議にて事業の説明と協力依頼。
- H29.12.22 障害者支援課副課長と私学への事業説明について協議。
- H29.12.25 府庁文教課 私学小中高校担当副課長に事業の説明と協力依頼。
- H29.12.27 上記担当副課長と私学対応について協議。

B. タスクフォース (TF) の確立 (京都府内の学区を想定)

- 各地訪問：上記の手続きが完了した後で、各実装地域を訪問する。訪問は主に専門研究員が行うが、特に初年度は、可能な限り共同実施者が同行するようにする。  
→H30.2.21 のキックオフ研修会において実装責任者がプロジェクト内容を参加者に告知し、その後実施を希望する学校から直接連絡を受けた。その後、下記の学校への訪問を行い、タスクフォースに関する説明も合わせて行った。訪問は専門研究員単独あるいは共同実施者と2名で行った。
  - H30.2.27 福知山市立惇明小学校訪問
  - H30.2.27 福知山市立昭和小学校訪問
  - H30.3.14 舞鶴市立余内小学校訪問
  - H30.3.23 学校法人燈影学園一燈園小中高等学校訪問
- TFメンバーの選抜：上記訪問によって得られた情報に基づき、各地域の実態に合わせて職種、募集方法にてカギを握る潜在的な人材を募る。候補としては、管理職、指導主事、教育相談担当、養護教諭等が想定される。この手続きで選抜されたメンバーをコア実装メンバーとの連携窓口であるTFとする。  
→上記小学校を訪問し、共同実施者と専門研究員から直接タスクフォースに関する提案をした。その後、実装責任者との協議により、連絡窓口であるTFを選定した。

### 3. 実装成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動等

#### 3 - 1. 展示会への出展等

#### 3 - 2. 研修会、講習会、観察会、懇談会、シンポジウム等

年月日	名称	場所	概要	ステークホルダー	社会的インパクト
H30年2月21日	子どものためのメンタルヘルス予防教育プログラム	京都府精神保健福祉総合センター	メンタルヘルス予防教育プログラムに基づいた教育手法の普及啓発に向け、プログラムの計画、内容等の周知を図ることを目的に実施。（参加人数50名程度）	教育関係者	

#### 3 - 3. 書籍、DVD

#### 3 - 4. ウェブサイトによる情報公開

- 同志社大学メンタルヘルス予防教育プログラム,  
<http://www.mentalhealthprogram.jp>, 平成30年3月27日
- 児童青年認知行動療法研究会, <http://ishinn.doshisha.ac.jp/CACBT.html>, 平成30年3月1日

#### 3 - 5. 学会以外のシンポジウム等への招聘講演実施等

#### 3 - 6. 論文発表

##### (1) 国内誌 ( 1 件)

- ・野中俊介・岡島純子・三宅篤子・小原由香・荻野和雄・原口英之・山口穂菜美・石飛信・高橋秀俊・石川信一・神尾陽子 (2017). 自閉スペクトラム症児童の不安に対する集団認知行動療法プログラムの開発：実施可能性に関する予備的検討 児童青年医学とその近接領域, 58, pp261-277.

##### (2) 国際誌 ( 0 件)

#### 3 - 7. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）

##### (1) 招待講演（国内会議 0 件、国際会議 0 件）

##### (2) 口頭発表（国内会議 0 件、国際会議 0 件）

(3) ポスター発表 (国内会議 1 件、国際会議 0 件)

- ・岡琢哉・石川信一・渡辺範雄・笹森洋樹・桑原千明・山口穂菜美・齊藤彩・近藤和樹・丸尾和司・神尾陽子 (2018). 小学校通常級におけるメンタルヘルス予防プログラムの有用性に関する研究 第10回日本不安症学会学術大会, 東京, 2018.3.16.

### 3-8. 新聞報道・投稿、受賞等

(1) 新聞報道・投稿 (0 件)

(2) TV放映 (0 件)

(3) 雑誌掲載 (0 件)

(4) 受賞 (0 件)

### 3-9. 知財出願

### 3-10. その他特記事項